

英語の論文を読むにあたって、とか

亀山 真典 © 愛媛大学地球深部ダイナミクス研究センター

英語論文を読む際に意識しておいたほうがよいこと

➤ 意識しておこう

- 段落が1つの単位
- 力点は逆接の後に
- 英語の接続詞
- 役に立つ文献

たぶん本当はもっとあるはずだけど、とりあえず今朝の時点で思い浮かんだことを。

1. 段落を単位として話が進んでいく
2. 逆接のあとに筆者の力点がある
3. 英文では等位接続詞と従位接続詞に気をつけよ

段落を単位として話が進んでいく

- 意識しておこう
- 段落が1つの単位
- 力点は逆接の後に
- 英語の接続詞
- 役に立つ文献

段落 (paragraph) とは

内容的に連結されたいくつかの文の集まり。

全体として、**ある1つのトピック (小主題)** について、**ある1つのこと (考え)** を言う (記述する・明言する・主張する) もの。

段落には (ふつうは) **トピック・センテンス** がある。

トピック・センテンス (topic sentence) とは

そのパラグラフ (段落) で、何について何を言おうとするのかを一口に、概論的に述べた文。

(ものすごく理想的には) **各段落のトピック・センテンス** を拾い上げただけでも、**内容が伝わる** ようになっている。

トピック・センテンスはその段落の最初のほうにあることが多い。

逆接のあとに筆者の力点がある

- 意識しておこう
- 段落が1つの単位
- 力点は逆接の後に
- 英語の接続詞
- 役に立つ文献

「誰の目に触れるか分からない」文章では、わざわざ**回りくどい言い方**を使わないといけなことが多い。

□ 単刀直入・一方的に自分の主張を書いてしまうと、誰からどんな非難がくるか分からない。

例: 「朝飯は白いごはんが一番」「英語の勉強は不要」

□ 予想しうる非難を避けるための**予防線**を張っている。

逆接のあとに注目すると、筆者の力点が見つかりやすい。
よくあるパターンは、日本語でも英語でもだいたい同じ。

確かにこういう考え方にも一理ある

けれど (逆接)

私は本当はこう考える

英語における等位接続詞と従位接続詞

- 意識しておこう
- 段落が1つの単位
- 力点は逆接の後に
- 英語の接続詞
- 役に立つ文献

「逆接」と「譲歩」をとり違えないように!!

英語には「等位接続詞」「従位接続詞」の2種類の接続詞がある。接続詞でつながった2つの文のうち、

- ❑ **等位接続詞**では、接続詞に続く文が**主**

He played very hard, **but** he lost the game.

- ❑ **従位接続詞**では、接続詞に続く文が**従**

He played very hard, **although** he lost the game.

これらを「しかし」と訳すだけだと、話を見失いがち。

2種類の見分け方はとても簡単。

- ❑ 等位接続詞は **and**、**but**、**or**、**nor**、**so**、**for** の6つだけ。
- ❑ それら以外は全て従位接続詞。

参考になる文献とか

- 意識しておこう
- 段落が1つの単位
- 力点は逆接の後に
- 英語の接続詞
- 役に立つ文献

買ってでも読む価値のある（と亀山が思う）本。

□ 木下是雄「理科系の作文技術」（中公新書）

…このテの本では定番中の定番。ただしちょっと文章が難解かも。

□ 杉原厚吉「理科系の英文作法 -文章をなめらかにつなぐ四つの法則-」（中公新書）

……………日本語の文章を書くときにも同じ技術がそのまま使える。

これらは主に論文を「自分が書く」際のものだが、当然「読む」際にも役に立ちます。

国語への苦手意識の強い人は↓も意外とおすすめ。

□ 後藤武士「読むだけですっきりわかる国語読解力」、「～続・国語読解力」（宝島 SUGOI 文庫）

……………中学受験が主な対象のようだが、基本の再確認に役立つ。